

夢で逢いましょう

片岡 清子

夢の中で、私は赤ちゃんを産みました。赤ちゃんはわずかに妊娠二カ月で産まれてきました、無事元気なようです。男の子で、名前は「リヨウイチ」とつけました。

産まれたのはいいけど、私はとても困っています。私は一人で、妊娠したことを家族にも誰にも話していません。身で、妊娠したことを家族にも誰にも話していません。

「この前妊娠したばかりなのに、もう産まれてきちゃった……どうしよう……」などと考えながら、私はリヨウイチを腕に抱いてあやしている……そんな夢でした。

独身で妊娠、二カ月で出産、困っている、などなど、気になる言葉は色々ありますが、目が覚めてから一番気になったのは、やはり「リヨウイチ」です。

現実の私自身にリヨウイチという子供はいませんし、周り

を見ても、過去に遡ってみても、その名前に心当たりはありません。夢の中の話ですので、リヨウイチは夢の中だけの人物、というのには当然といえば当然なのです。出産という一大事、しかもちゃんと名前までつけているので、リヨウイチとは一体誰なのか、何を表わしているのか、といった疑問が頭から離れず、あれこれ考えているうちに、「この夢は私のこれからの人生に何か意味があるのかもしれない」などと大きなことを思い始め……と、そんな取るに足らないことを一人勝手に楽しんでいました。

そんなリヨウイチの話を、ふと誰かに話してみたくありません。

昔あるミュージシャンが、自身のみた夢の内容を歌詞に織り交せて曲を作り、インタビュで「なぜかわからないけど、この夢の話を歌詞に入れたかった」と話していたことがありました。もちろん詞を作る上での演出もあったと思いますが、自分がみた夢の話、というとりとめのないことを、誰かに話したい、聞いてもらいたいという気持ちもあったのかもしれない。そんな気持ちは、わかるような気がします。

私も、私の中だけにいたリヨウイチを、こうしてお話することができました。

もし、私の現実には、「リヨウイチ」が現れたら、その時はまた、誰かに聞いてもらいたいと思います。

(了)